

長く続いた戦争と人々の暮らし

6年 社会科

I 実践の目指しているもの

○「戦争」や「平和」をより身近にする

今年、太平洋戦争の終結から70年の節目を迎えた。子どもは戦争の知識をある程度もっており、「戦争はよくない」「戦争は怖い」と漠然と思っているが、具体的な知識と実感は伴っていない。よって、本実践では地域に残る資料を多く取り入れ、より身近に捉えさせる手立てをとっていく。また、事実を羅列するのみでなく、当時の人々の気持ちを考える時間を大切にしていく。そのために、戦争を体験した人の話を聞いたり、体験談が載っている資料を活用したりする活動を取り入れる。こうすることで、漠然としたイメージだった「戦争」や「平和」が、その子なりに明確なものになることをねらう。

○単元の学習問題を中心にして

本単元の中心概念は、「長く続いた戦争は、国民生活に大きな影響を及ぼし、国民や近隣諸国に大きな被害をもたらしたこと」である。戦争を知らない子どもにとって、戦争は遠い存在である。そこで、まずは実際に戦争を体験した方の話を聞くことで、戦争についての思いをもたせる。日中戦争や太平洋戦争について調べていく際は、地図を活用して戦争の広がりをつまみやすくしていく。国民生活や空襲について調べ学習を進める際は、「札幌市平和バーチャル資料館」「札幌市民の戦争体験」、また自分たちの地域に残る「白石百年」を中心に活用していく。身近な事例を学ぶことで、実感を伴った理解につながり、意欲も持続すると考える。最後に学習のまとめとして、学んだ知識を生かしながら、ノートに自分の考えを書かせる。単元の最後には、子どもがより強く平和を願い、未来に向けて自ら平和を築いていく心をもつように単元を構成していく。

II 研究の内容

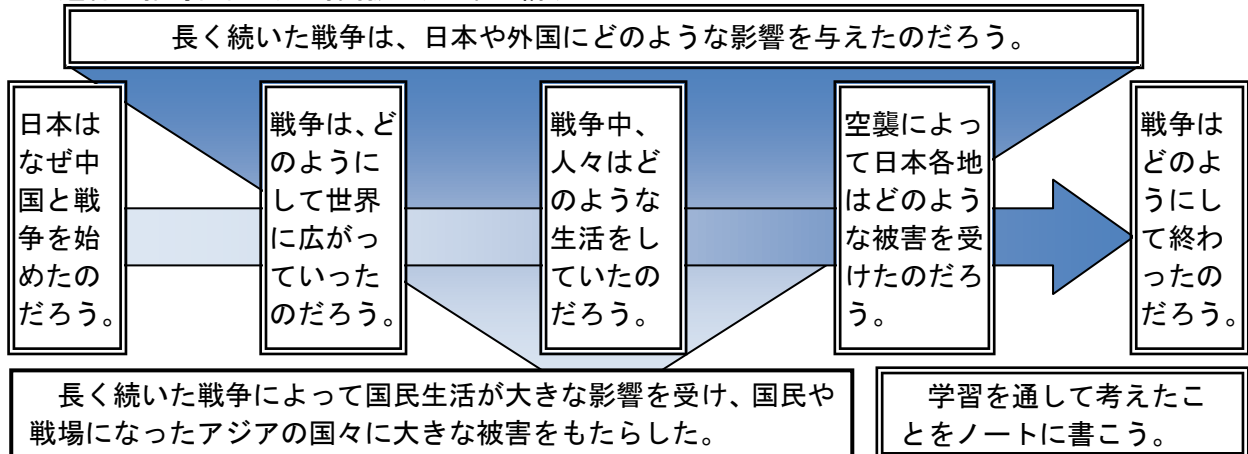
1 題材名（単元名）

長く続いた戦争と人々の暮らし

2 題材の目標（単元の目標）

- ・日中戦争、太平洋戦争、そのころの国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産に関心を持ち、進んで調べようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・強化された戦時体制や敗戦によって国民生活が大きな影響を受けたこと、戦場になった地域に大きな被害を与えたことや、それらにかかわる代表的な文化遺産の意味を考え、適切に表現している。【思考・判断・表現】
- ・文化財、地図や年表、戦争を体験した人の話、その他の資料を活用して必要な情報を集め、読み取り、調べたことを年表、作品やノートにまとめている。【技能】
- ・戦時体制の強化や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことを理解している。【知識・理解】

3 題材の指導計画（7時間扱い）・単元構成など



4 本時について

(1) 本時の目標

戦時中の生活について、資料を活用して調べ、くらしのすべてが戦争のために制限されたことを理解する。

(2) 本時の展開 (4 / 7)

戦時中の標語



日本人なら
ぜいたくは
出来ない筈だ！

子どもも含まれるのかな。

ものが足りなかったのかな。

○戦時中の標語から当時の人々の生活を予想させ、本時の学習への見通しをもたせる。

戦時中、人々はどのような生活を送っていたのだろう。

学校生活

- 軍事教練
・剣道・竹やり
- 勤労奉仕
・援農・工場
- 学徒出陣
・中学生
- 勉強

日常生活

- 集団疎開
・親と離れて
- 配給制
・衣類、米、野菜
- 遊び
・兵隊ごっこ

戦時体制

白石のまちでも…

公園や学校が
軍の施設に…。

白石駅も空襲を…。



○資料が多く、調べる内容も多いので、グループで分担して調べさせ、発表した内容を板書に位置付ける。

○『白石百年』の資料を提示し、自分たちの地域でも同じことがあったことを知り、思いを深めさせる。

戦争に協力するために、
生活のすべてが制限されていった。

どうして人々はこのような生活をしなければならなかったのだろう？

戦況が悪化して
きているから。

当時の国民は日本が
勝つと信じていたから。

○既習や年表と照らし合わせ、戦時体制が強いられていった社会的背景を捉えさせる。

**戦争は人々の生活をすべて奪っていく。
戦争は決してあってはならないものだ。**

振り返り

自分たちの地域でも
戦争があったんだ。

これから先の未来も戦争
をしてはいけない。

5 実践のポイント

【成 果】

- 単元の導入で「札幌市平和バーチャル資料館」の映像ライブラリー「札幌市民の戦争体験証言映像」を活用した。戦後 70 年ということもあり、戦争体験の語り部の確保が困難になってきているため大変価値が高いと感じた。児童数名は涙を流しながら映像を見ていた。当時の人々の思いや戦争の悲惨さを捉えることにつながった。
- 地域の歴史資料や「札幌市平和バーチャル資料館」の「歴史と戦跡」など、児童にとって身近な事例を多く取り上げた。本時の中でも児童が最も反応がよかったのは地域の事例が出てきた時である。現代と比較しながら考えることで、イメージをもちやすくなり学習に対する意欲が高まった。
- 教室に図書館の本や、「札幌市民の戦争体験」を展示しておいた。児童がいつでも手に取ることができ、授業の中でも資料として活用することができていた。
- 学習が終わった後も、自主的に戦争や世界情勢について調べたり、他の単元で知識を活用しながら表現したりする姿が多く見られた。貴重な資料を生かし、真剣に学んできたことで、平和を強く願う心が育ったものと考える。

【課 題】

- 「軍事教練」「勤労奉仕」など、一つ一つの言葉を、全ての子どもに理解させるのが難しい。言葉の表面のみをなぞるのではなく、それがどのような内容で、当時の人々はどのような思いをもっていったのか、じっくり時間をかけて考えさせていくとよかった。
- 本時のまとめの言葉を子どもが話し合いで作っていったが、子どもの思いが強くなり、やや主観が入った表現になってしまった。文言については、事実でまとめるように配慮し、さらに慎重になる必要があった。
- 当時の国民の思いに迫るためには、時代背景をしっかりと捉えていなければならない。子どもが調べきれなかった内容や難しい内容については教師が補足説明を適宜行うようにし、理解を深めていく必要がある。